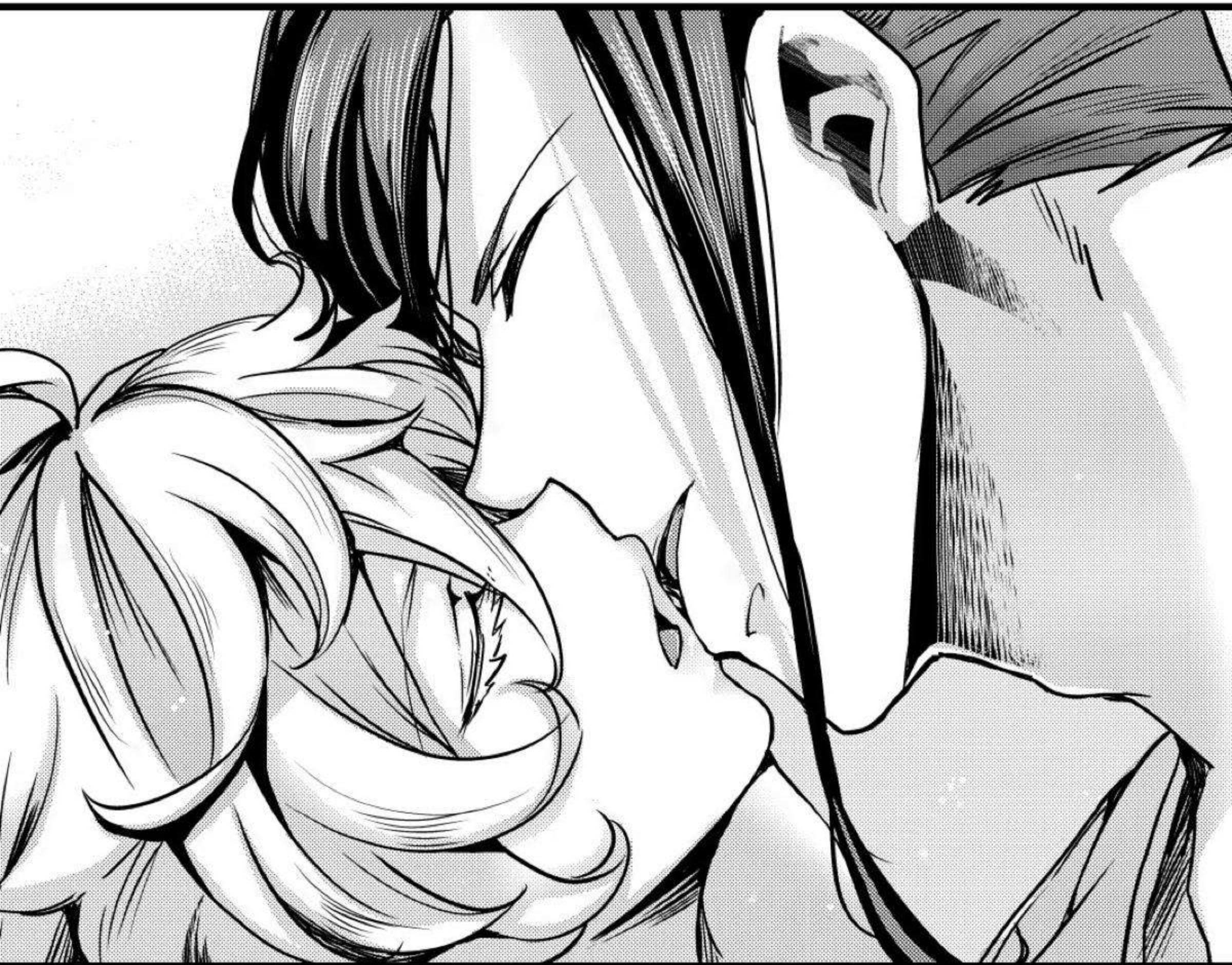




ターニヤ
本当に良いのか？

はい、エーリツヒ





この感覚は……！



貴様も人を愛する事が出来るまでに成長したか



エーリツピ？



喜ばしい事だ

やはり貴様の仕業か！



相変わらず無粋だな



愛に触れ貴様も
神の存在を感じるだろう



存在X!!



御冗談を!

私が彼を受け入れたのは
これまでの
信頼と尊敬からだ

そこに神の存在など
ありはしない!!



そうか



貴様にはまだ愛し愛される
喜びが足りぬようだな



大佐殿から出る!!

……貴様……っ!

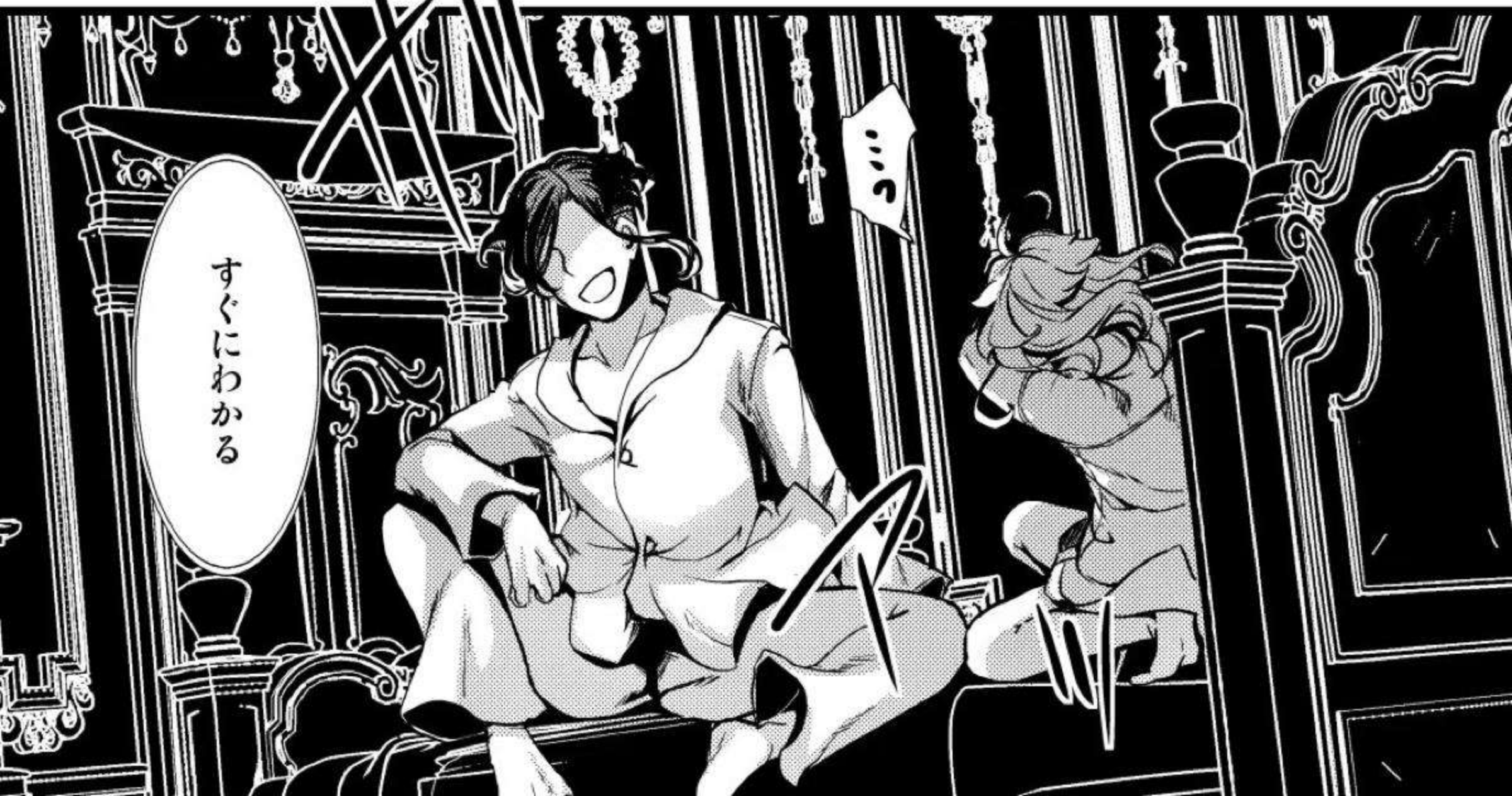


はあ？呪いの
間違いでは？



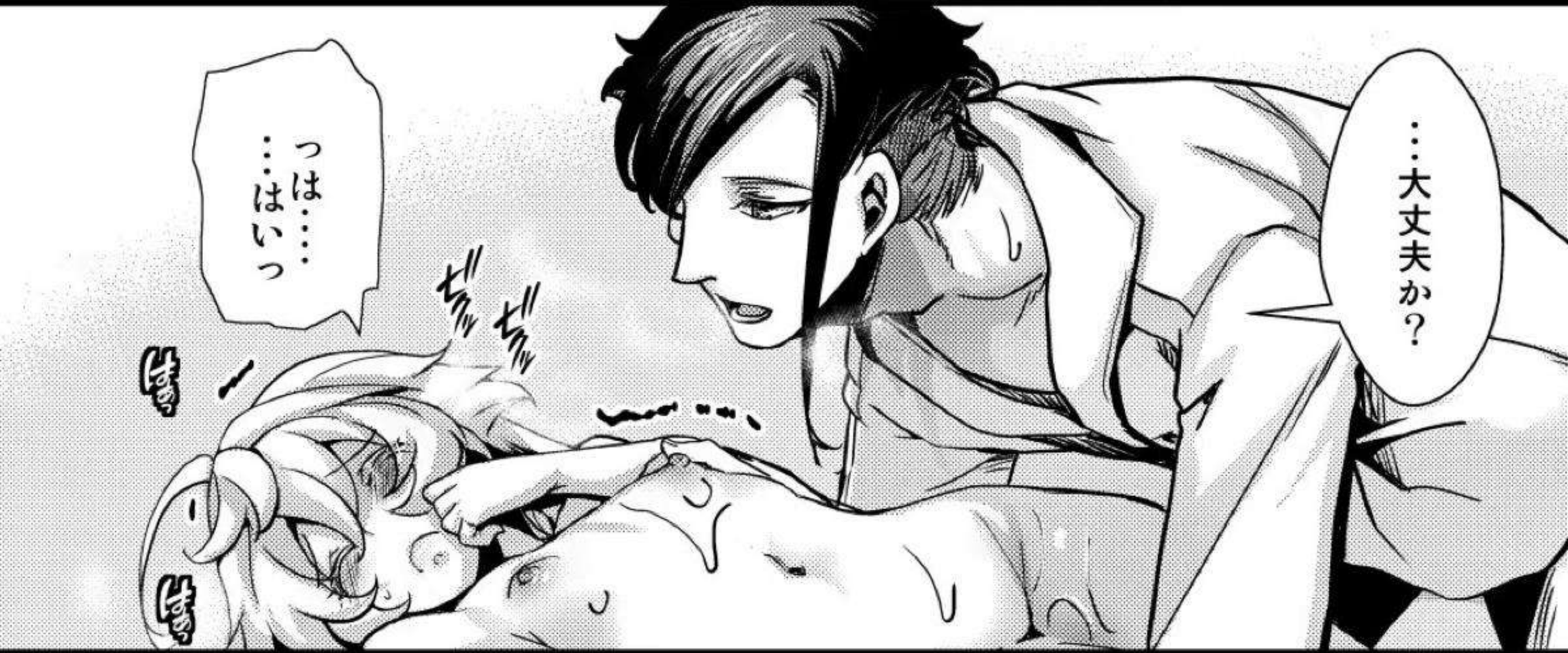
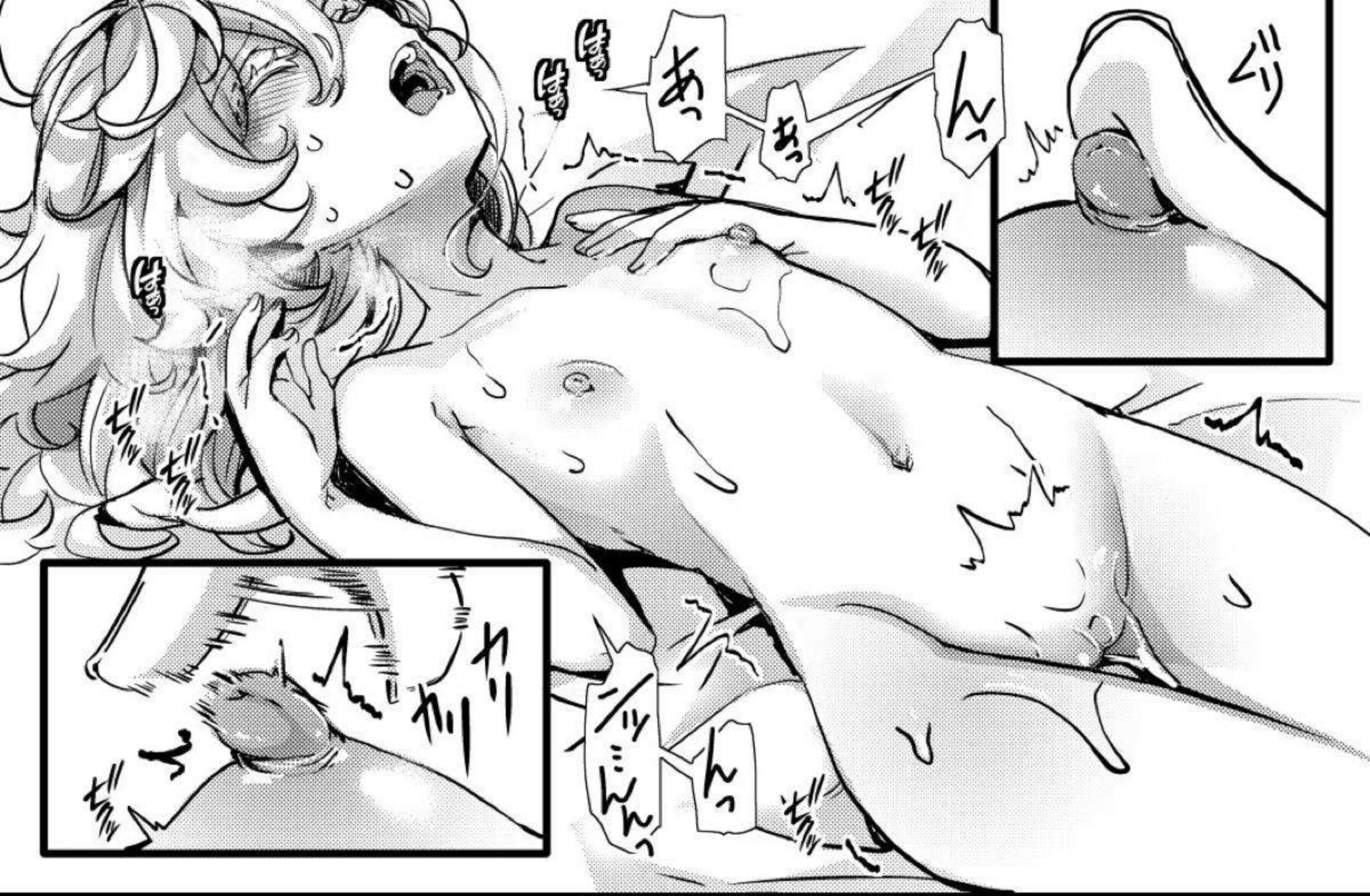
私からの特別な
恩寵をやろう

悦びを知り
神の存在を
感じるが良い



すぐにわかる







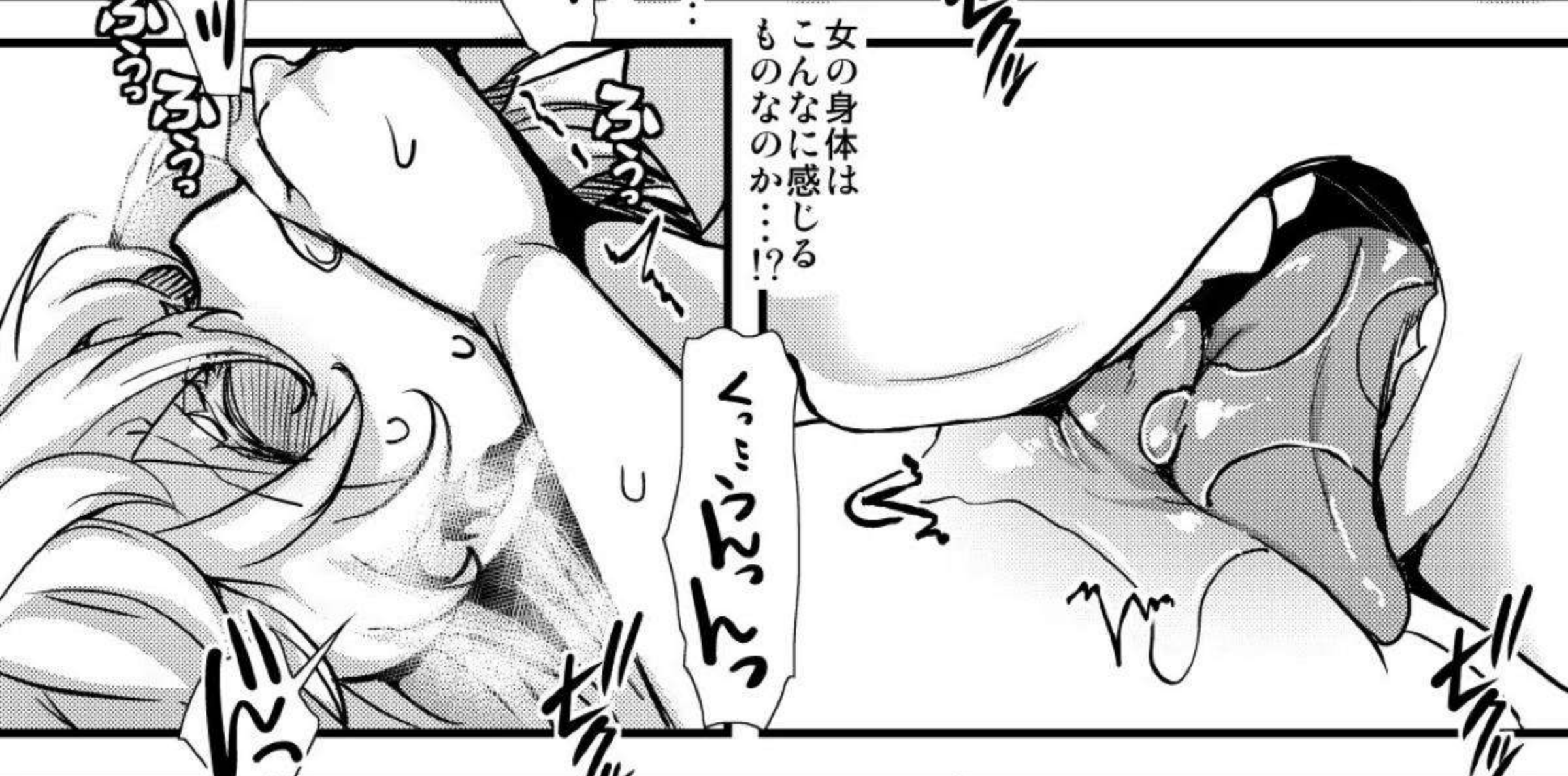
こんなに勃たせて
可愛いな、ターニャ





なんだ……これは……

女の身体は
こんな感じに
感じるもの
なのか……!?



……まさか……
存在Xの恩寵と
いうのは……っ



……まさか……
存在Xの恩寵と
いうのは……っ



初めてだと聞いていたが……

……ターニヤ？



どう説明すれば……



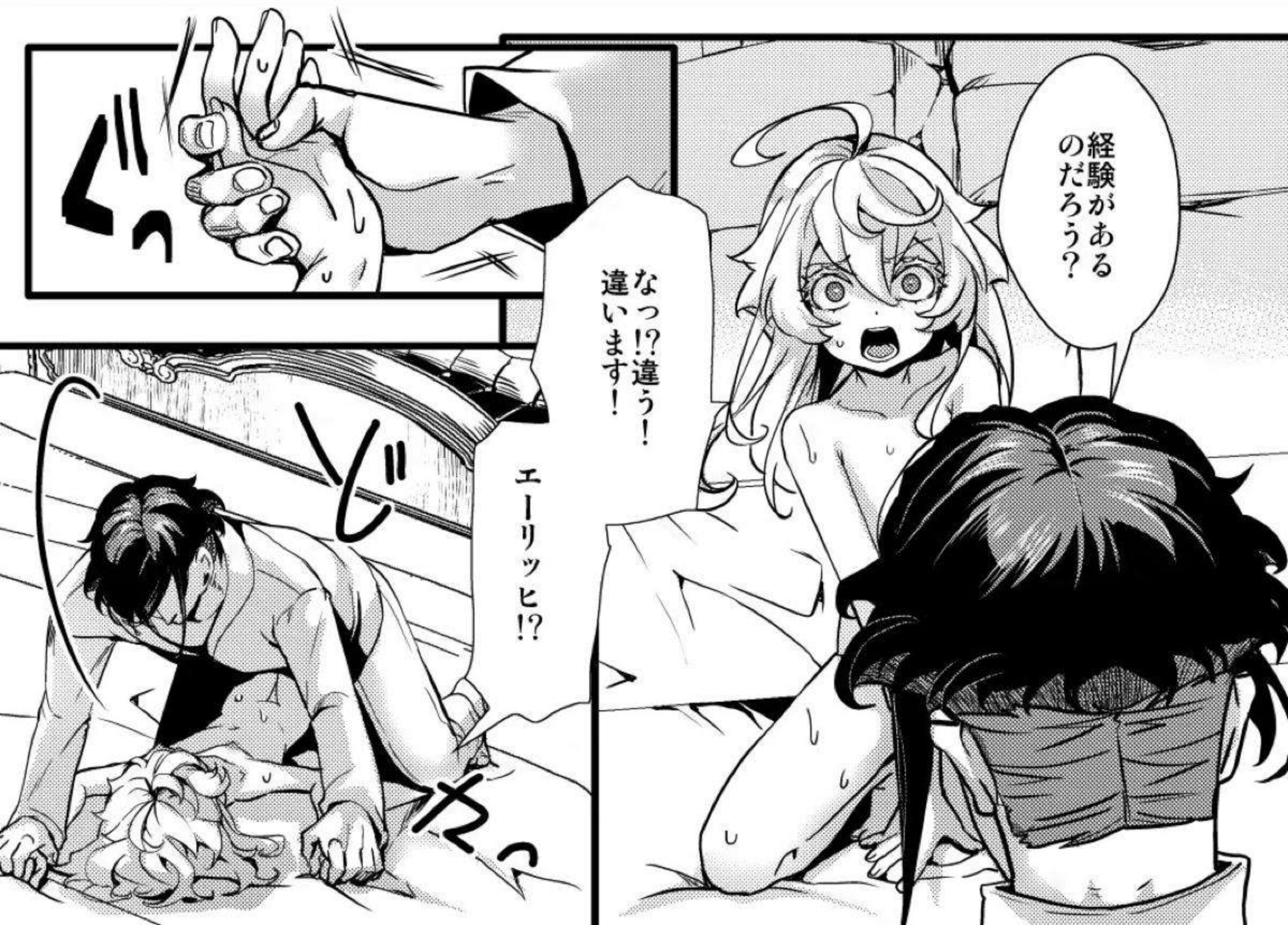
これは……っ
その……

存在Xのせいで
敏感になってる
なんて言えるわけも
ないし……



あーあの！







！エーリッヒ!?

やっ...だめですっ

随分感じているな？
こんなに濡らして

セクッ

セクッ

セクッ

セクッ

セクッ

セクッ

びちゃっ

ん

びちゃっ

びちゃっ...

セクッ

びちゃっ



ぐわぐわぐわぐわ

ぐわぐわ

またイツたな？
誰に仕込まれた？



ぐわぐわ

ぐわぐわぐわぐわ
ぐわぐわぐわぐわ

ぐわぐわぐわぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ



…!?
エーリツヒ!?

ま…待ってください!

経験があるのだろうか?
なら慣らす必要もないな



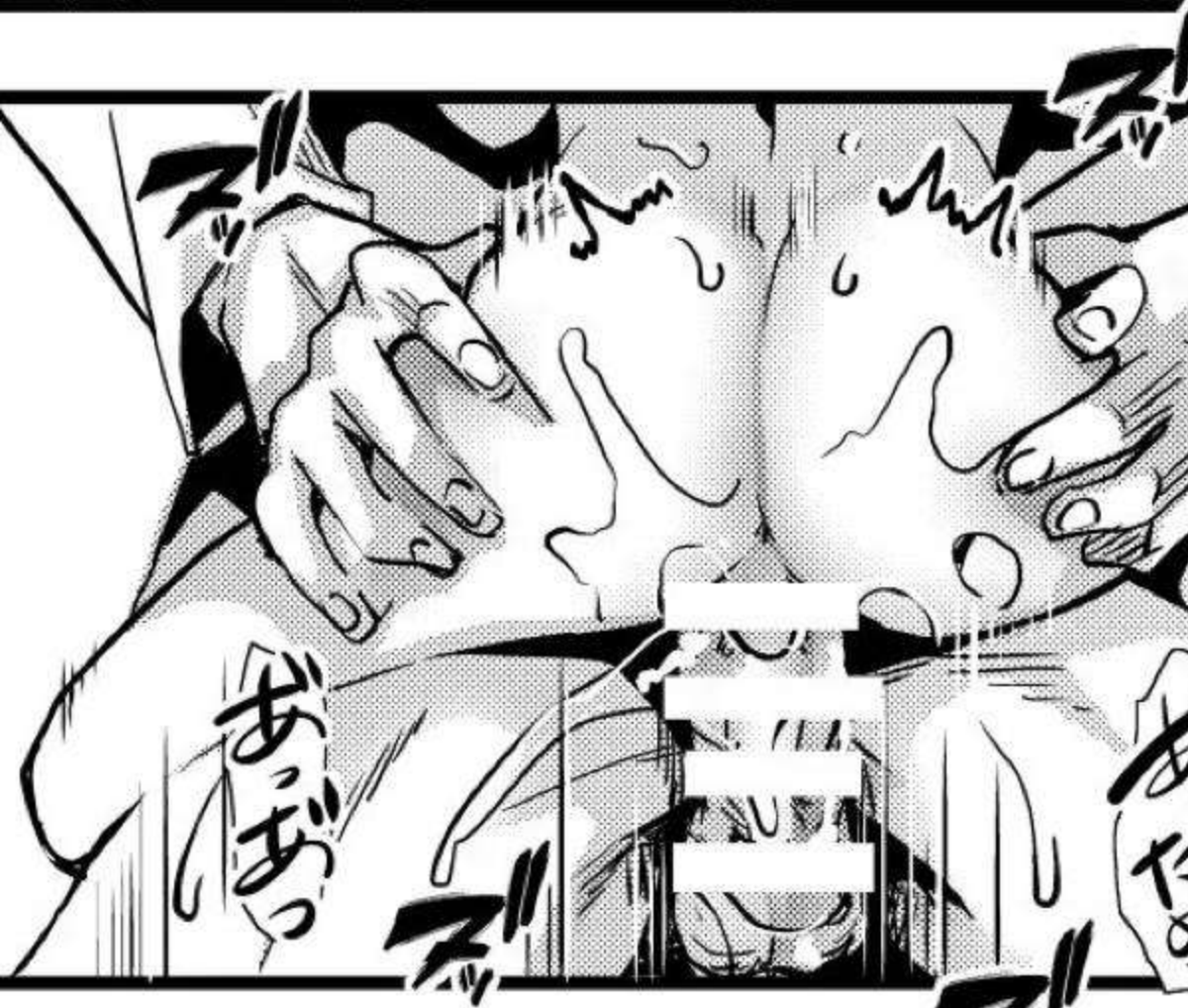




許して欲しい……っ

……すまないっ
最低な勘違いをした……

誤解が……とけたなら
……それでいいっ……ですっ



けどっ……これっ
……だめえっ

ふあふあ



あーっ

ははは



エーリッヒ…っ
だめっ…また…イツちや…っ



アッ

アッ

何度でも
イかせてやる

ターニヤ



ああああ

ああああ

ああああ

ああああ

ああああ

ああああ

ああああ

ああああ

ああああ

ああああ

ああああ

ああああ





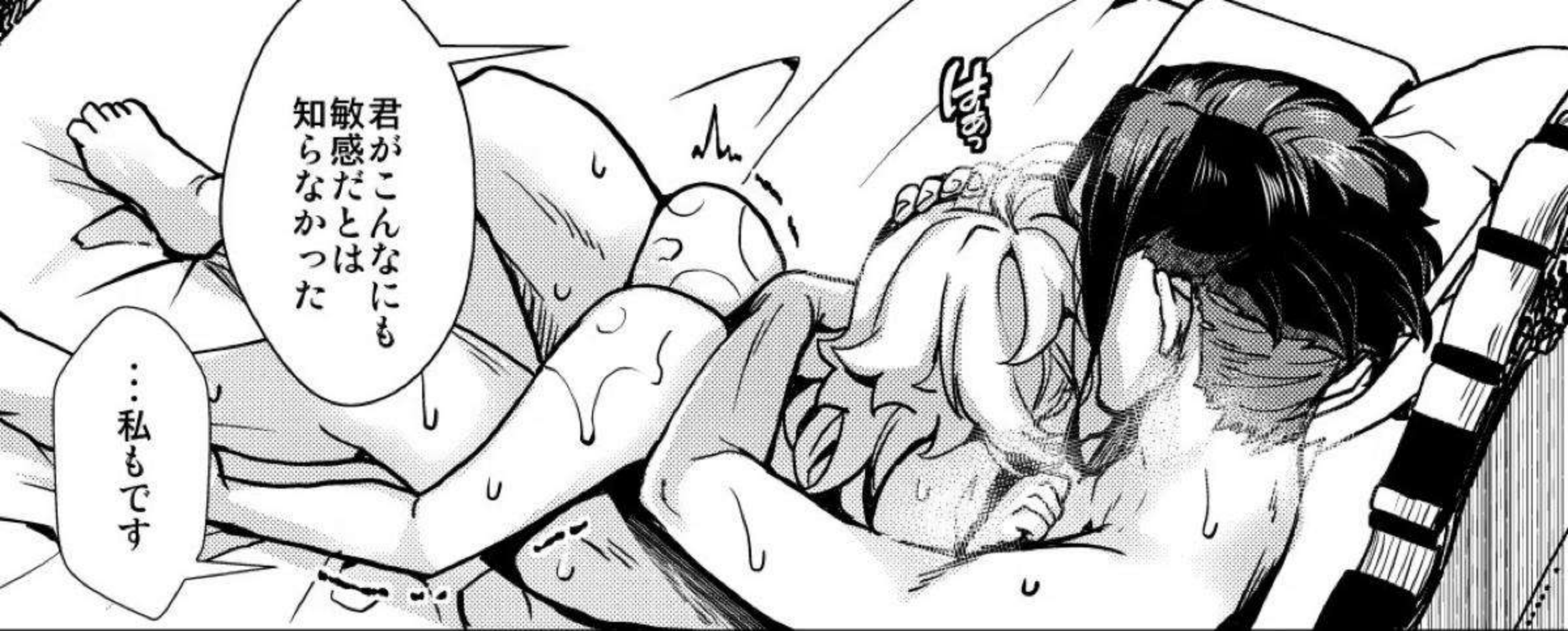




クククク

お前の
女心

お前の
女心



君がこんなにも
敏感だとは
知らなかった

…私もです

Getss

ん



これが存在Xの
恩寵か…っ

余計な事を…!!



…しかし心配だな

何がですか?

Getss

ん

Getss

ん

ん



こんな少しの
触れ方でも感じてる

他の者が触れた時も
そうなのかな？



いえ…私も…
こんなのは
初めてです…っ

ですが…それは
杞憂であると思います

と言いつつ…

おそろく…ですが
あ…貴方にだけ…っ
反応するのかなと…っ

存在Xの言葉通りであれば
対象はエーリツヒのみ





仕事中は極力私に触れないでいただけると助かります...

...ですからっ...



何で今間があつたんですか！



善処しよう

END